

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail:info@iki2life.com

4月例会ご案内

日時 : 4月8日 木曜日
18:00 ~ 20:00
場所 : 港区立商工会館
参加費 : 1000円
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」の
第三章より 続き
演者 : 石田 金次郎

コロナで時間短縮を迫られ、第三章の「立場の検査」の例について議論。

「外国の立場で論じるエコノミスト」では、外国情報の引き写しでは、外国の立場を代表してしまう。立場の検査が必要である。

「安定成長の意味」では、日本の高度成長と安定成長の使い分けは間違えないように！
日本の実際経験では最も安定経済であった安定成長であった「高度成長」の戦後30年の経験をご破算にして、「狂乱物価」で不安定経済を実現した数年前の低成長経済を恒久化しようというのが「安定成長論」？

全ての国、全ての国民に共通して適用される普遍性の原理などない。その国の立場の表現、自国の利益に役立つものでなければならない。

「自由の持つ意味」では、「自由」はそれぞれの時代、それぞれの人たちの立場を表現してきた。フランス革命の「自由・平等・博愛」の自由は18世紀の新興ブルジョワジーの自由であった。アメリカの自由はアメリカの国益を守るもの、日本の自由は日本の国益を守るもの。ぶつかり合いながら、その立場を検査して、その中から真実を探し出すことが必要である。

「立場の分析」では、立場がはっきりすれば、問題の衝突点の本当の姿が分かる。立場の分析はその性質の違いを認識させ、対処する方法を正しく選ぶことが出来るようになる。

以上が第三章の「立場の検査」の内容である。

今回は第三章の(四)；「原因の探求—条件と原因を混同しないこと」であるとなった。

追補；要考慮！

・ここ数年、地球温暖化が進み気候変動への対応が西欧を中心に急速に進んでいる。… ESG, SDG s

・2016年に発効したパリ協定が目指しているのは2100年までの気温上昇を産業革命以前と比較して2度未満に押さえ込むことである。その2度の目標も非常に危険であると科学者が警鐘を鳴らしている、

・シベリアの気温 38℃、永久凍土の融解、異常干魃、強大な豪雨被害、大型台風、山火事、海面上昇と気候変動に伴う大災害は頻発してくる。

・経済成長と二酸化炭素発生量の増のデカップリングは難しい。技術は、問題の先送りだという主張。

・ESGの重要性は益々重要になる。

・アフガンの大干魃と中村哲の意味。

・日本は2050年までに温暖化排出ガスを実質ゼロにする宣言済み；戦略目標の賽は振られた！

